

「月探査に関する懇談会」における検討の進め方について（案）

平成 21 年 8 月 4 日

宇宙基本計画において、「有人を視野にいたロボットによる月探査」については、以下の案を念頭において、1年程度をかけて検討を行う旨記載（参考1参照）。

- ・ 第一段階（平成32年（2020年）頃）として科学探査拠点構築に向けた準備として、我が国の得意とするロボット技術をいかして、二足歩行ロボット等、高度なロボットによる無人探査の実現を目指す。
- ・ その次の段階としては、有人対応の科学探査拠点を活用し、人とロボットの連携による本格的な探査への発展を目指す。

加えて、宇宙開発戦略本部において、内閣総理大臣から「宇宙開発担当大臣の下、我が国の叡智を集め、直ちに検討を開始し、一年後を目途に方針を明確化すること」との指示がなされている（参考2参照）。

これらを踏まえ、月探査に関する懇談会（以下、「本懇談会」という）における検討については、以下のとおり進めることとする。

1. 検討項目

(1) 月探査の意義・目標

- ・ 我が国の技術や経験を生かした日本らしい月探査の意義・目標（科学、技術、産業等の観点から、2020年に目指す具体的目標及び有人宇宙活動を想定した長期的目標）

(2) 2020年頃に実現を目指す高度なロボットによる無人月探査の具体像

- ・ 目標達成のために解決すべき技術的課題（例えば長期かつ高度な探査を可能とするロボット技術、電源技術や往還技術等）
- ・ ロボット探査の優位性を考慮した目標に向けての研究開発ロードマップ
- ・ 宇宙以外の研究開発分野との連携を考慮した研究開発体制（国際協力含む）
- ・ 宇宙産業のみならず他産業への波及効果
- ・ その他（資金見積もり等）

(3) 長期的視点に立った有人宇宙活動を想定した月探査の基本的方針

- ・ 我が国として人とロボットの連携による探査で取り組むべき課題
- ・ 国際協力の在り方についての基本的考え方
- ・ その他

2. 検討スケジュール

平成22年6月頃を目途に報告書を取りまとめ。懇談会では、必要に応じ構成員からのプレゼンテーション、構成員以外の専門家等からのヒアリングを適宜実施。なお、以下のスケジュールは議論の進捗により変更がありうる。

● 第1回会合（平成21年8月4日）

- ・ 懇談会の運営、進め方（検討項目・スケジュール）について
- ・ 月探査に関するこれまでの我が国の取組と海外の動向について

● 第2～4回会合（平成21年9～11月頃）

- ・ 月探査の意義・目標について
- ・ 2020年頃に実現を目指す高度なロボットによる無人月探査の具体像について（技術的課題、研究開発ロードマップ、研究開発体制、他産業への波及効果、資金見積もり等）
（米国有有人宇宙飛行計画再検討委員会報告の紹介）

● 第5～6回会合（平成21年12月～平成22年2月頃）

- ・ 長期的視点に立った有人宇宙活動を想定した人とロボットの連携による月探査の基本的方針（我が国として取り組むべき課題、国際協力の在り方についての基本的考え方、その他）について

● 第7回会合（平成22年3～4月頃）

- ・ 論点整理

● 第8回会合（平成22年4月末頃）

- ・ 報告書（案）について

～ パブリックコメント ～

● 第9回会合（平成22年6月頃）

- ・ パブリックコメント回答案、報告書取りまとめ